

2023年度

入学試験問題
(A日程午前)

国語

注意

- 1 「開始」の合図があるまで開いてはいけません。
- 2 「開始」の合図で、1/5から5/5まで問題が印刷されていることを確かめなさい。
- 3 解答用紙に受験番号を書きなさい。名前を書いてはいけません。
- 4 答えはすべて解答用紙の指定された解答らん^{らん}に書きなさい。問題用紙に書いても得点になりません。
- 5 解答用紙はこの表紙の裏にあります。
- 6 「終了」^{しゅうりょう}の合図で、すぐに筆記用具を置きなさい。
- 7 問題および解答用紙は机の上に置き、持ち帰ってはいけません。

雲雀丘学園中学校

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ご飯や味噌汁をおいしいと感じて受け入れるのは、「身体」です。ご飯を食べ、味噌汁を飲んでいるとき、おいしさ以上の何か、心地よさを感じていると思うのです。それは、安心感でしょうか、癒しでしょうか。感じ方はいろいろですが、少し幸せな気持ちになれるものです。

お肉の脂身やマグロのトロは、一口食べるなり反射的においしい！と感じますが、それは舌先と直結した「脳」が喜んでいるのだと思います。そのように脳が喜ぶおいしさと、身体全体が喜ぶおいしさは別だと思うのです。

身体は鈍感、ということでもありませんが、すぐにはわからず、食べ終わってから感じる心地よさのような感覚、身体がきれいになったような気がする……というあれです。一つ一つの細胞が喜んでいて、それを、身体の心地よさで伝えてくれているのです。一方で、その穏やかなやさしさに、脳は気づかないことが多い。どうも脳というのは、身体と反対の方向を向いていることがあるように思います。この頃は「脳に騙されるな」、あまり脳を信じてはいけなと思っています。

ご飯や味噌汁、切り干しやひじきのような、身体に良いと言われる日常の食べ物にはインパクトがないので、テレビの番組などに登場することもありません。もし、切り干しやひじきを食べ、「おいしいっ！」と驚いていたら、わざとらしいと疑います。そんなびつくりするような切り干しはないからです。若い人が「普通においしい」という言葉使用をするのを聞いたことがあります。それは正しいと思います。普通のおいしさとは暮らしの安心につながる静かな味です。切り干しのおいしさは、「普通においしい」のです。

お料理した人にとって、「おいしいね」と言ってもらうことは喜びでしょう。でもその「おいしい」にもいろいろあるということです。家庭にあるべきおいしいものは、穏やかで、地味なもの。よく母親の作る料理を「家族は何も言ってくれない」と言いますが、それはすでに普通においしいと言っていることなのです。なんの違和感もない、安心して居る姿だと思えます。

そのように考えると、私たちがものを食べる理由は、おいしいばかりが目的ではないことがわかります。メディアでは「おいしい」「オイシイ!!」と盛んに言われていますが、繰り返し聞かされている「おいしいもの」は、実は食べなくてもよいものも多いことがわかります。メディアから発信される刺激的で新しいものには、よくわからないものもあります。そうした流行りはすぐに廃れ、次々変化していきます。情報的なおいしさと、普遍的なおいしさとは区別するべきものです。全く別物であると理解して、食を選ぶのです。

「腹が減っては戦ができない」と昔の人は言いましたが、エネルギーが無くなると身体が動かなくなります。人間は、命を作るために料理し、元氣をつけるために食べ物を食べるのです。苦い青汁を我慢して飲んで見ますが、それもおいしさよりも健康を求めて飲んでいるでしょう。人間の「食べる」は、表層的なおいしさだけを求めているのではない。無意識の身体はそれをすでに知っており、穏やかな心地よさとしてゆつくりと脳へメッセージを伝えていきます。

(中略)

「料理はやつぱり、ひと手間」ですよね」とはよく聞かれる言葉ですが、それは労力を褒めているのであって、必ずしもおいしさにつながるものではありません。そんな言い方をするのは、一般的に手を掛けることが愛情を掛ける、思いを込めることにつながると思っているからです。しかし、日常の料理では手を掛ける必要はありません。家庭料理は手を掛けないもの。それがおいしさにつながるのです(和食は「手を掛けるもの、手を掛けないもの」という二面性を持ちますが、それは次で説明します)。

素材を生かすには、シンプルに料理することがいちばんです。ところがこの頃は、先述のように手を掛けない、手を掛けたものこそが料理だと思っている人が多い。SNSの投稿などを見ると、一汁二菜をお膳に正しく並べた画像に「今日は手抜きしちゃった」と言葉を添えてつぶやいています。和食は簡単、普段はもう少し手を掛けてみると、少し我慢もしているのでしょうか。そんなつもりはなくても、手の掛からない、単純なものを下に見る風潮がお料理する人自身のハードルを上げ、苦しめることになっているのです。

そのプレッシャーをまともに受け取った忙しい人たちは、加工食品を使って、別の食材と混ぜ合わせるとか、できあがったものにトッピングしたりして、複雑にすることでなんとかできると思うようになり、それがまた「手を掛けること」お料理すること」という誤解を助長させています。けれども、私にはそちらのほうが手抜き料理に見えます。

食材同士を組み合わせる別の味を作ることや、いろいろな香料や調味料で味を重ねて美味を作るという考え方は、そもそも日本的な考え方はありません。それは西洋の考え方です。日本には今、様々な哲学や思想の切れ端のような言葉が生活の中に都合よく紛れ込んでいます。

かつてサッカーの日本代表監督をつとめたザッケローニ氏が、退任後に長年付き添った通訳の方とラジオに出られていました。彼は日本でわさびの味を覚えて、とても好きになったと言います。それも辛味の強いチューブのわさびがよいという。トークは楽しく盛り上がったのですが、アナウンサーの男性が「面倒くさいわさびはダメなんだ。やつぱりチューブですよ」と、何かに迎合するようなコメントをしました。本物を「面倒なもの」と規定して(決めつけて)、否定する文化破壊……と目くらまをたてるつもりはありませんが、こうした何でもない日常の一言に影響を受けてしまう人が多いのです。

基本的な基準や考えをしっかりと持つことで、正しい判断ができるようになります。和食の背景には「自然」があり、西洋の食の背景には「人間の哲学」があります。両者は全く違う人間を作ります。日本人ならば、日本語を話すように、日本らしくお料理するのが基本です。そこに合理性があります。現代の私たちは、それぞれの背景にあるものを認識した上で、日本の食文化と外国の食文化の両方を楽しむことができると思います。

変化を拒むのではありませんが、思いつきの仕事から食文化は生まれません。今、和食は絶滅危惧種だと言われているように、日本の家庭料理は失われる傾向にあります。食文化は日本人の心を作るもので、それはアイデンティティとなり、自信や信頼を生みます。文化は大切にすべきもので、変化には慎重であるべきでしょう。和食として寿司や懐石が残ったとしても、家庭料理を失った食文化は、薄っぺらいものです。家庭料理は人間の力です。

(土井善晴『一汁一菜でよいという提案』)

* SNS …… 双方向に交流できるインターネット上のサービス。

* アイデンティティ …… 自分が自分であるという感覚。またそうした自分が、他の人から認められているという感覚。

* 懐石 …… 現在では和食のコース料理のことを指す。

問一 ―線部①「あまり脳を信じてはいけない」とありますが、筆者はなぜこのように述べているのですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 脳は食べたものに敏感に反応するため、鈍感な身体とは反対の方向を向いていることが多いから。
- イ 脳は反射的においしいと感じるが、時間をかけて身体に伝わる気持ちよさには気づかないことがあるから。
- ウ 脳は食べたものが身体に良いか悪いかだけではなく、おいしいかどうかでも反射的に判断してしまうから。
- エ 脳は身体に良いものだけでなく、動物の脂のような身体に悪いものもおいしいと感じてしまうから。

問二 ―線部②「切り干しのおいしさは、『普通においしい』のです」とありますが、これはどういう意味ですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 切り干しは味にインパクトがないぶん、誰もがおいしいと感じるものである。
- イ 切り干しは身体に良い食べ物で、若い人でも安心して食べられるものである。
- ウ 切り干しは特別な日に作るような料理ではなく、いつも家庭にあるものである。
- エ 切り干しは地味でありふれた料理で、気持ちを落ち着かせてくれるものである。

問三 ―線部③「情報的なおいしさ」とありますが、これはどのようなおいしさですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア メディアによって一時的に広められた、人々が食べなくてはいけないと思いついでいるもの。
- イ メディアによって意図的につくられた、食べた人がおいしいと思いつまされているもの。
- ウ メディアによって徐々に更新される、実際においしいかどうかには重きが置かれていないもの。
- エ メディアによって繰り返し聞かされる、実際に食べなくてもどのような味か予想できるもの。

問四 ―線部④「人間の『食べる』は、表層的なおいしさだけを求めているのではない」とありますが、これはどういうことを述べていますか。それを説明した次の文の（ a ）～（ d ）にあてはまることばを本文から探し、それぞれ指定された字数で書きぬきなさい。（、。。「」は字数に数えます。）

人間は、舌先と直接結びついた（ a 一字 ）が感じる表面的なおいしさだけではなく、食べることで（ b 五字 ）を得て、（ c 二字 ）が感じる（ d 四字 ）も求めているということ。

問五 ―線部⑤「私にはそちらのほうが手抜き料理に見えます」とありますが、筆者は「手抜き料理」をどのようなものだと考えていますか。二十五字以内で答えなさい。（、。。「」は字数に数えます。）

問六 ―線部⑥「日本には今、様々な哲学や思想の切れ端のような言葉が生活の中に都合よく紛れ込んでいます」とありますが、この文にこめられた筆者の思いはどのようなものだと読みとれますか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 日本人の生活に外国の考えが入りこんで、日本的な考えが軽んじられることをなげいている。
- イ 日本古来の文化に外国文化が入りこんで、区別がつかなくなっていることにおどろいている。
- ウ 日本古来の考えに外国の考えが入りこんで、外国の考えが優先されることを不思議に思っている。
- エ 日本人の生活に外国の考えが入りこんで、両者がうまく調和していることをうれしく思っている。

問七 ―線部⑦「基本的な基準や考えをしつかり持つ」とありますが、この考えにあてはまるものとして適当なものを次のア～オからすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 日常の料理ではできるだけ時間をかけないために、なるべく加工食品を用いる。
- イ おいしい和食をつくるには、できるだけシンプルに料理することが重要となる。
- ウ 和食でも西洋料理でも、自然の食材をできるだけそのまま用いることが大切である。
- エ 日本人が西洋料理を楽しむには、西洋の「人間の哲学」を知ることが必要となる。
- オ 和食を絶滅の危機から守るためには、面倒くさくても時間と手間をかけて料理する。

問八 ―線部⑧「家庭料理を失った食文化は、薄っぺらいものです」とありますが、家庭料理を失った食文化はなぜ薄っぺらくなるのですか。最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 家庭料理は和食の起源となるものであり、それが失われると、見ればばかりで伝統が残らなくなるから。
- イ 家庭料理は人々の生きる力を育むものであり、それが失われると、これからの時代の変化には対応できなくなるから。
- ウ 家庭料理は人々の暮らしを映し出すものであり、それが失われると、その国に固有の食材や調理方法がなくなるから。
- エ 家庭料理は誰もが日常生活で食べるものであり、それが失われると、人々の心を作る伝統的な食文化がなくなるから。

問九 ―線部A「助長」について、次の(1)・(2)に答えなさい。

(1) 「助長」の意味として、適当なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア まちがった解釈を信じこむこと。 イ 広く世の中に知らしめること。
- ウ 悪い傾向をいっそう強くすること。 エ 予想された通りになつてしまうこと。

(2) 次の1～4の故事成語の意味を、あとのア～カからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- 1 杞憂 きゆう 2 蛇足 だそく 3 推敲 すいこう 4 矛盾 むじゆん
- ア 物事のつじつまが合わないこと。 イ 物事がいいかげんで、誤りが多いこと。
- ウ 無くて困らない、余計なもののこと。 エ 一歩もあとには引けない状態のこと。
- オ 心配する必要のないことを心配すること。 カ 言葉や表現を何度も考えて手直しすること。

問十 ―線部B「目くじらをたてる」は慣用句です。これと同様に「目」を用いた次の1〜4の慣用句やことわざが（ ）内の意味になるように、にあてはまることばをそれぞれひらがなで答えなさい。

- 1 目からが落ちる (今までわからなかったことが急に理解できるようになる)
- 2 目の上の (何かと目障りであったり、じやまになったりするもの)
- 3 目をにする (おどろいたり、物を探したりするときに目を大きく見開く)
- 4 の目にも涙 (どれほど冷酷な人でも、時には涙を流すことがあること)

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

中学二年生の川井ソラは中学一年生のとき、同級生の臣野にからかわれて教室に行けなくなり、現在は保健室に登校をしている。そこでハセオという俳句が好きな同級生と出会い、「一緒に俳句をつくるようになった。次の場面は、ソラとハセオのいる保健室に元担任の高橋先生が入ってきた場面である。

「もうすぐ夏休みだろ。俺の知り合いがやってるヨットスクールに、川井、来てみないか？ 二週間、海べで暮らすと、気分もずいぶん変わると思うんだ。どうだ？」

ソラは、うつむいたまま、かぶりをふった。

①「だめかあ……うんうん……」

高橋先生は、自分で自分を納得させるかのように、機械的なうなずきを繰り返す。

ソラのことを気にかけてくれているのはありがたいけれど、正直なところ、放っておいてほしかった。

「だめなんだよな、やっぱり」

高橋先生は説得ということをしない人だった。ソラが否定の意志を示した以上、それでこの話は終わってしまうのだ。もう出ていこうとしている、というのがソラには気配でわかった。

「ん、これは、歳時記か？」

高橋先生が、クローバーの机から取り上げたのは、さつきハセオが置いた歳時記だった。

「ふーん、川井は、俳句に関心があるのかあ」

ぱらぱらとページをめくる音が、ソラの頭の上で聞こえた。視線は、リング形の時計に向けたままだ。タコ糸で、縛りつけてしまったみたいに。

「俺もな、理系なんだけど、新聞の投稿欄を読んで、俳句っておもしろいなと思ってな。数字ばかり相手にしているから、言葉を知らないんだよ。でもな、ほら……」

高橋先生はページを繰る指をびたつと止めて、

「白雨なんて、きれいな言葉だよなあ。のことを、そういうんだな。最近じゃ『ゲリラ豪雨』なんていうが、それじゃ味気ないもんな。こういう、趣のある言葉、大事にしていきたいよな」

高橋先生は、しばらく歳時記をめくっていたが、ソラがうつむいたままで、反応がないのがおもしろくなかったらしい。

「じゃあ、ヨットスクール、行きたくなったら連絡してくれよ。いつでも、待ってるから」

高橋先生が出ていったドアの音が、しずかな部屋の中に、響く。

そのとたん、プールからはしやぎ声に戻ってきた。②「いままで、たまたまやんでいたのか。それとも、聞こえなかったのか。その遠い声の裏側から、ふいに近いところまで声がした。」

「ソラ、ソラ」

カーテンの内からの声。

ソラは、お化けにささやかれたかのように、びくつと肩を震わせた。

「ハセオ」

ハセオは、はずみをつけて、ベッドから飛び降りる。日ざしのさしこむ窓に向かって、大きく伸びをする。長身の彼がその姿勢を取ると、まるで太陽を射ようとする弓のように見えた。

「え、いつから起きてたの？」

おそるおそるソラが尋ねると、

「ノックで起きた」

こともなげにハセオは答える。それから、ずいっとソラのほうに顔を向けて、

「あいつの言うこと、おかしいよな」

③「オモムキノアルコトバヲダイジニシタイツテ、ああいうこと言う大人ってよくいるんだけど」

机の歳時記を手にとって、高橋先生と同じように、ぱらぱらとめくりながら、

「おれはな、こう思うのよ。白雨って、たしかにきれいな言葉だけどさ、それ自体がきれいなわけじゃない。むかしから、それをき、きれいな歌や、詩や、句に詠んできたから、きれいに聞こえるようになったわけだろ？」

ハセオは、こんなふうに、言葉や、俳句について話すときだけは、真剣そのものだ。そういうときには、ひとさし指で、あごをせわしなく擦る。本気で考え、しゃべっているときの、クセだ。

するとふいに、ハセオのくちびるがゆっくりとひらいて、びっくりするほど澄んだ、歌のような調べが、そこから流れてきた。木から木へこどもの走る白雨かな

ソラは、きれいな鳥が一瞬目の前を過ぎていったような感覚に、しばし、浸っていた。

俳句を朗唱しているのだ、と気づくのに、数秒、かかったほどだった。

ハセオは、ひと呼吸おいてソラのほうを見て、にやつと笑う。そして、いつもの口調でとうとうとしゃべりだした。「こういう句な、いいと思わん？　ひと目見たときから、頭の中にビシッと刻まれた句なだけでさ。外で遊んでたらさ、夕立が降ってきて、いそいでうちに帰る途中で、できるだけ濡れないように、木の下を通っていくじゃん。その感じな。葉っぱのすきまから、雨と日差しがいつしよに降ってくるキラキラ感って、おれ大好きなんだけど、おれのかわりに、おれの何倍もうまくそれを言ってくれてる。だからさ、すごいのは、白雨って言葉じゃなくて、白雨って言葉を、きれいに使ってきた人たちだと思っただよ。白雨って言葉を使って、安っぽいことやつまらない言葉を言ったら、やっぱり白雨って言葉が輝かないじゃん？　それで、輝かせてきた人に、悪いじゃん？　というより、悔しいじゃんか、昔の人にできて、おれらにできないなんてさ。だから、おれ、俳句を作ってるんだ」

ハセオは、歳時記を、ぼんと、机の上に投げだす。その瞬間――

「あ、こんなのどう？」

ポケットをごそごそして、取り出したのは、紙くず――いや、短冊だった。ハセオはその短冊を机の上にひろげると、まるで金魚すくいをするかのようなすばやさで、ボールペンでささっと言葉を書き留めた。

白雨駆け抜けるケーキが待っている

「どうよ？」と言って突き出された短冊の言葉を読んで、ソラのくちびるに、ふっと笑みが浮かんだ。自分でも、気づかないうちに。ああ、こんなことってあるなあ――そう思ったのだ。夕立に降られて、濡れて帰ってくる。そうすると、家であたたかい紅茶を出してくれる。紅茶には、ケーキもついてくる。そんなことが、いつだったか、あったような気がする。

夕立に濡れた肩の気持ち悪さ、革靴の匂い、湿った靴下で廊下をペタペタ歩く感覚、口にふくんだ紅茶の苦さ、クリームの舌触り……一気によみがえってくる。ソラには、このケーキは白いクリームを使ったショートケーキに違いがないという確信があった。たぶん、雨しぶきの白さを表しているであろう「白雨」の「白」、この字が、白いケーキだということを想像させる。だから、「夕立」ではなくて「白雨」である必然性があるのだ。

でも、ソラにはそれを全部言葉にすることは、できなかった。というより、ためらわれた。ハセオの句の世界が、むしろ壊れてしまうような気がしたのだ。それで、

「わかるよ」

とだけ、答える。

ハセオは、うれしそうに、歯を見せて笑った。「んじゃ、これ、とっておこ」と言って、短冊を胸ポケットにしまう。

「ようするにさ、言葉は使い方次第だってことだよな。逆も言えると思うんだよ、バカとかアホとかだつてさ、きつたない言葉だけどさ、おれがたとえば、ソラにさ、謎句がとけなかったときは『バツカでー』とか言うじゃん。ああいうときの『バカ』は、本当にバカにしてるバカじゃないって思うんだよな。あ、なんかバカって言いすぎてよくわからなくなってきたけど」

ソラは、どきっとする。

いやなあだ名をつけられてしまった。汚い言葉。

ハセオの考えに沿うのなら、そんな言葉でも、輝くことがある、ということだ。

いや、ハセオは、自分の俳句で、輝かせてみせる、と言っているのだ。

本当だろうか？　そんなことができるのだろうか。

臣野シゲルたちが口にするときの、その言葉は、悪意にまみれている。たぶん、彼らは、人を傷つける刃物としてしか、その言葉を使えない。では、ソラ自身なら？　到底無理だ、と思う。でも、ハセオなら、できそうな気がした。

「だからさ、あいつは、まちがってるよ」

そう言つて、ハセオは笑う。結局その日、ハセオは、ソラに何があったのかとか、高橋先生とどういう関係なのかについては、ひとことも聞くことはなかった。本当に関心がなかったのか、気を遣ってくれたのかは、わからない。でも、そのことが、ソラにはむしろありがたかった。

(高柳克弘『そらのことばが降ってくる 保健室の俳句会』)

*歳時記……俳句の季語を整理、分類した書物。

*謎句……一見すると意味がよくわからない、謎かけのような俳句。

問一　　〳〵線部 a 「ふいに」・ b 「とうとうと」の本文中での意味として、適当なものを次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- a　ふいに　　(ア　たぶん　　イ　かなり　　ウ　かすかに　　エ　いきなり　　)
- b　とうとうと　(ア　よどみなく　イ　ゆっくりと　　ウ　声高らかに　　エ　自分勝手に　　)

問二　　――線部①「だめかあ……うんうん……」とありますが、このときの高橋先生の様子として、最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア　過去のことを引きずってばかりいるソラを理解するとともに、それでも教師としてできることはないかと考えている。
- イ　自分にできることは何かないかと提案したが、それを否定したソラの気持ちを優先しようと自分に言い聞かせている。
- ウ　ヨットスクールへ行くことを考えもしないソラを見て、自分が担任していた頃と何も変わっていないと落胆している。
- エ　話しかけてもしやべらないソラを見ると、このままでは何も変わらないのではないかと行く末を心配している。

問三　　〳〵にあてはまることばを本文から漢字二字で探し、書きぬきなさい。

問四 — 線部②「いままで、たまたまやんでいたのか。それとも、聞こえなかったのか」について、先生が生徒のHさんに質問しました。1 3 にあてはまることばをそれぞれ答えなさい。ただし、1 は五字、2 は十一字で本文から探して書きぬき、3 はあとのア〜エから最も適当なものを選び、記号で答えなさい。(、。。「」は字数に数えます。)

先生 プールの音はやんでいたのかな？ それとも音はしていたけれど、ソラには聞こえていなかったのかな？
Hさん 私は聞こえていなかったのだと思います。
先生 なぜそう思いましたか？

Hさん 本文にそう読みとれる根拠があるからです。まず、ソラは先生から何を話しかけられても 1 (五字) ままでいます。それに、ソラは先生から 2 (十一字) と思っています。これらから私は、先生といるときソラは 3 ため、周りの音が聞こえていなかったのだと思います。先生 そのように読んでいくと、人物の心情もよくわかるね。

(ア 一人きりでいたかった イ 何も考えていなかった ウ 感情をおさえきれなかった エ 心が張りつめていた)

問五 — 線部③「オモムキノアルコトババダイジニシタイ」とありますが、なぜこの部分はカタカナで表記されていると考えられますか。最も適当なものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

ア ハセオが、その言葉の意味を少しも理解できていないことを示すため。
イ ハセオが、その言葉を思い出さず感じていることを示すため。
ウ ハセオが、その言葉を形式的でつまらないと考えていることを示すため。
エ ハセオが、その言葉を丁寧にしつかりと言おうとしていることを示すため。

問六 — 線部④「きれいな鳥が一瞬目の前を過ぎていったような感覚に、しばし、浸っていた」とありますが、ここでのソラの様子を説明したものとして、最も適当なものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。

ア ハセオが俳句を急に詠んだことにおどろくとともに、その声の美しさを表現できないでいる様子。
イ ハセオが俳句を詠んだことに気づかなかったほど、聞こえてきた言葉の余韻に感じ入っている様子。
ウ ハセオが俳句を詠む声の真剣さに圧倒されて、自分の考えていたことがわからなくなっている様子。
エ ハセオが俳句を詠む声の調子に心うばわれて、詠まれた光景がありありと思いつかんでいる様子。

問七 — 線部⑤「だから、おれ、俳句を作ってるんだ」とありますが、ハセオは何のために俳句を作っているのですか。三十字以内で説明しなさい。(、。。「」は字数に数えます。)

問八 — 線部⑥「ハセオの句の世界が、むしろ壊れてしまうような気がした」とありますが、これはどういうことですか。最も適当なものを次のア〜エから選び、記号で答えなさい。
ア ソラがハセオの俳句を言葉で説明すると、十分に言い表せないどころかそのよさを損なってしまうということ。
イ ソラがハセオの俳句から思い浮かべた様々な物事は、ハセオが俳句にこめた思いとまったく異なるということ。
ウ ソラはハセオの俳句からなつかしい記憶を思い出したが、言葉で説明するには不確かな記憶であるということ。
エ ソラはハセオの俳句に自分への気遣いを感じたが、言葉にするとその気遣いを台無しにしてしまうということ。

問九 — 線部⑦「そんな言葉でも、輝くことがある」とありますが、これはどういうことですか。三十五字以内で説明しなさい。(、。。「」は字数に数えます。)

問十 本文について述べたものとして適当でないものを、次のア〜エから一つ選び、記号で答えなさい。
ア 「びたつと」「にやつと」「どきつと」などの擬態語により、人物の心情が効果的に表現されている。
イ ソラの口数の少なさに対してのハセオの口数の多さは、二人の性格のちがいをうまく表している。
ウ 語り手の視点をその時々会話主の視点と同じにすることで、人物の心情と様子が十分に伝わってくる。
エ 会話文での「……」や地の文での「——」によって、人物の心情や場面の雰囲気や細やかに読みとれる。

問十一 本文を読んだHさんは俳句に興味をわき、もっと理解を深めたいと思いました。そこで、雨に関する季語を歳時記で調べたところ、A〜Cの俳句が見つかったので、それらを次のように整理しました。 a c にあてはまるものとして、適当なものをあとのア〜エから一つずつ選び、記号で答えなさい。

A	木枯らしの地にも落とさぬ時雨かな	向井去来	【季語】時雨	【説明】	a
B	部屋々々の寝息しづかや花の雨	清原栲童	【季語】花の雨	【説明】	b
C	俄雨しきりに秋にいどみけり	久保田万太郎	【季語】俄雨	【説明】	c

ア やわらかく降る雨が、人々の静かに生きる様子とともに描かれている。
イ 雨におどろきあわてる人々と、まったく動かない自然とが描かれている。
ウ 急に降る雨が何度か続いて、次の季節に移り変わっていく様子が感じられる。
エ 勢いよく吹く風とその風に流される雨の対比がおもしろく、動きが感じられる。

三 次の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。ただし、必要な場合はひらがなで送りがなも書きなさい。

- 1 新しい商品のセンデンをする。
- 2 難民をキュウサイする。
- 3 上から糸をタラス。
- 4 父のセンモンは言語学です。
- 5 卒業して会社にツトメル。
- 6 裏であれこれとカクサクする。
- 7 お寺でジョヤの鐘をつく。
- 8 打合せをメンミツにする。
- 9 秋は空が澄み、馬もよくコエル。
- 10 ゲキテキな結末をむかえる。

一

問一

問二

問三

問四 a

b

c

d

問五

問六

問七

問八

問九 (1)

(2) 1

2

3

4

問十 1

2

3

4

二

問一 a

b

問二

問三

問四 1

2

3

問五

問六

問七

問八

問九

問十

問十一 a

b

c

三

1	センデン	5	ツトメル	9	コエル
2	キュウサイ	6	カクサク	10	ゲキテキ
3	タラス	7	ジョヤ		
4	センモン	8	メンミツ		

受験番号
<input type="text"/>
得点
<input type="text"/>

問一 問二 問三

問四 a b c d

問五

料	を	複
理	掛	雑
。	け	に
	た	す
	よ	る
	う	こ
	に	と
	見	で
	せ	、
	る	手

 問六 問七
(完答)

問九 (1) (2) 1 2 3 4

問十 1 2 3 4

問一 a b 問二 問三

問四 1 2 2

3 問五 問六

問七

っ	い	昔
て	、	の
輝	言	人
か	葉	に
せ	を	負
る	き	け
た	れ	な
め	い	い
。	に	ぐ
	使	ら

 問八

問九

こ	葉	次	汚
と	で	第	い
。	は	で	言
	な	人	葉
	く	を	で
	な	傷	も
	る	っ	、
	と	け	使
	い	る	い
	う	言	方

 問十 問十一 a b c

三

1 センデン	5 ツトメル	9 コエル	1 宣伝
2 キユウサイ	6 カクサク	10 ゲキテキ	勤める
3 タラス	7 ジヨヤ	10 ゲキテキ	肥える
4 センモン	8 メンミツ	10 ゲキテキ	劇的
3 タラス	7 ジヨヤ	10 ゲキテキ	除夜
4 センモン	8 メンミツ	10 ゲキテキ	綿密
2 キユウサイ	6 カクサク	9 コエル	画策
1 センデン	5 ツトメル	9 コエル	宣伝